

大問	小問	解答番号	正解	配点	解説
三 50 点	(一)	⑯	家庭	2	
		⑰	年齢	2	
		⑱	当然	2	
		⑲	迷惑	2	
		⑳	過言	2	
	(二)	㉑	①	4	Aには前の事柄に続いて次の事柄がおこることを示す「すると」が、Cには逆説を示す「だが」が入る。結果、①が正解になる。
	(三)	㉒	㊂	2	後に「美しい」とあるので、それに対応する「優雅」が最も適当である。
	(四)	㉓	①	2	論文に関する文章であるが、⑨では「何でも自由に自分の好きなことを書いてみよ、というのが論文」とあるので、「テーマ」が最も適当である。
	(五)	㉔	㊂	4	②はまだ関連する議論が展開されていない。⑩、⑯、⑮、㉕の場合、前にある文章の内容とそぐわない。㉓は前に「グライダー人間の方が重宝である」などの内容が書かれているので、この段落の末尾に入る。
	(六)	㉕	右記	8	<p>解答例      「受動的に知識を得るのがグライダー能力で、自発的に物事を考えるのが飛行機能力だが、学校教育では前者の養成のみ重視しているということ。」(65字)</p> <p>採点基準      ⑯の内容を踏まえたグライダー能力と飛行機能力の説明(各3点)。学校では前者の養成のみ重視しているという指摘(2点)。</p>
	(七)	㉖	㊂	4	続く文章に「言われた通りのことをするのは得意だが、「自力飛行の力を失ってしまうのかもしれない」などとあるので、㊂が最も適当である。
	(八)	㉗	㊂	4	㉑と㉒の記述から、知識の成果という「花」にだけ注目し、その成果をもたらす「根」に思いを巡らす姿勢が乏しかったとする㊂が最も適当である。
	(九)	㉘	①	4	①で示されている「飛行機能力の養成を行うよう

					になったことへの変化」については述べられていない。
(十)	㉙	㊂	4		⑦「たとえや事例は交えずに、事実のみを淡々と述べている」、①「体言止めや擬態語を頻繁に用いる」、⑨「疑問文を多用」、⑩「他人の文章を引用」という記述は、説明として適當ではない。
(十一)	㉚	㊃	4		16 や 25 から、グライダー能力の養成まで否定しているのではない。